

ANP降下剤治療薬・予防薬特許・パンフェノンSの犬僧帽弁閉鎖不全症への効果

鯉江 洋¹⁾ 大川 博²⁾ 田中 聖心²⁾
Hiroshi KOIE Hiroshi OKAWA Satomi TANAKA

協賛：株式会社スケアクロウ

1. はじめに

犬の僧帽弁閉鎖不全症に対しては、一般的にACEIやピモベンダンなどの内科治療薬が使用されている。しかし、重症度の高い症例では、それらの治療薬にも反応せず内科的治療の限界を感じる場面に遭遇することがある。我が国ではサプリメントとして取り扱われている天然植物成分のピクノジェノールは、高い抗酸化作用と末梢血管拡張作用を持つことが知られている。また、その有用性に関しては多くの論文報告がなされている。本研究では、ピクノジェノールを含有するパンフェノンSを一般的に使用されている心臓病薬との併用を行い、その有効性について検討を行った。

2. 材料および方法

全国の15病院にて僧帽弁閉鎖不全症の犬27症例について治験を実施した。本研究では左心房容量負荷がある症例を対象とし、現在投与を行なっている心臓病薬を継続しながらパンフェノンSを30日間併用した。治験中の心臓病薬の投薬内容は変更しなかった。評価のために、試験開始時と30日後に一般身体検査、血液検査(CBC、生化学16項目、

ANP)を実施した。また、飼い主には、就寝時の呼吸数の計測、発咳の変化ならびに散歩時の様子を観察記録してもらった。

3. 成績

僧帽弁閉鎖不全症の犬27症例のうち、左心房容量負荷があると判断した14症例のANP値は有意に減少していた($p < 0.05$)。その中でもANP高値群($> 300\text{pg/ml}$)の4症例に関しては、より高い有意差が認められた($p < 0.01$)。また、本治験時に重大な有害事象は認められなかった。

4. 考察

ANP値に有意な減少がみられたことから、パンフェノンSは、僧帽弁閉鎖不全の症例に対して、末梢血管拡張作用による左心房への容量負荷を軽減する効果があると考えられた。今回の治験により、内科治療に限界がみられた症例に対する治療の有効性が示唆された。今後さらに症例を重ね、パンフェノンSのさらなる可能性に関してデータを収集したい。

¹⁾ 日本大学生物資源科学部 獣医生理学研究室：〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

²⁾ 株式会社スケアクロウ：〒150-0045 東京都渋谷区神泉町11-8 梅山ビル2F